

愛知淑徳での経験すべてが、子どもたちの成長を支える大きな力になっています。

大好きな愛知淑徳で 将来の夢を見つけた。

自分がやりたいと思った勉強や活動を、最大限度にやらせてくれた場所。それが愛知淑徳でした。中学時代は生徒会活動に熱中し、3年生のとき、中学校の学園祭としては初となる後夜祭を企画・運営しました。仲間と一緒にアイデアを出し合い、自分たちの力を発揮して新しいことに挑戦できる毎日がとっても楽しかったと、今でも当時のワクワクした気持ちが鮮明に思い出せます。高校3年間はずつと室長を務めるとともに、吹奏楽部での練習に打ち込みました。2年生のときは指揮者として約100人の部員をまとめ、私たちだからこそ奏でられる美しい音をめざしました。いろんなことに全力投球できた愛知淑徳は、本当に大好きな学校。働いている先生方がイキイキとしていて、

こんな大人になりたいと憧れ、教員を志望するようになりました。

大学時代も、教職課程の学修をはじめ、国際理解に関する研究、サッカー部のマネージャー業など、多くのことに力を注ぎました。転機となつたのは、小学校でのボランティア活動。大きく成長する小学生の子どもたちを見守り、個性や可能性を伸ばす小学校教員になりたいと強く思うようになつたのです。そして、大学院に進学して初等教育を専門的に学び、教員となる夢をかなえました。

たびにパワーがみなぎり、教員として走り続けきました。息子を出産後に1年間休職担任しています。目標は、愛知淑徳の先生方のような教員になること。生徒・学生に教えることを心から楽しむ先生方のように、私も自分らしく笑顔で教えていきたい。その姿を見せることが、子どもたちがのびのびと頑張つていける支えになると信じています。

子どもの笑顔が
教員としての原動力。

名古屋市公立小学校の教員になつて、7年目。日々の業務の多さに圧倒されながらも、子どもたちのキラキラした笑顔を見る

これから時代を担う子どもたちに対しうれ願うのは、自分で考え、判断できる力を身につけ、行動を起こしていくほしいということです。失敗も成長の糧になるのだから、いろんな経験を重ねてほしい。それは愛知淑徳の生徒・学生の皆さんに対しても、エールの言葉として贈りたいと思います。私も、大學の理念「違いを共に生きる」の心を忘れず、すべての人との出会いを大切にして向



中学3年生のときの学園祭・後夜祭。ゲームやキャンプファイヤーなどを実施し、学校中を盛り上げました。



「できた!」「わかった!」「楽しい!」という子どもたちの笑顔が、教員を続けていく力になります。



名古屋市公立小学校教員
菅原 圭さん(旧姓:宮坂)

愛知淑徳中学校・高等学校を経て、愛知淑徳大学現代社会学部へ進学。2006年3月に卒業後、愛知教育大学大学院で小学校教諭専修免許状を取得。2009年4月から名古屋市公立小学校の教員として教育現場で子どもたちの成長を支える。